

神戸の冬を支える会

にゅうすれたー

<第21号> 2003年3月

発行：神戸の冬を支える会（Tel&Fax:078-271-7248 e-mail:kobe-fuyu@nifty.com）

〒650-0004 神戸市中央区中山手通1-28-7 カトリック神戸中央教会内



8年前の「あの日」をきっかけに「神戸の冬を支える会」は誕生しました。この間多くの仲間たちと出会うことができました。野宿の仲間を取り巻く状況は、少しは「まし」になってきてはいるかもしれませんが、依然「冬」であることにちがいはありません。

昨年8月「ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法」が制定され、その「法」に基づく基本方針の策定のための「概数調査」と「生活実態調査」がこの1月～2月にかけて行われ、その集計結果がこのほど厚生労働省から発表されました。今後は、その調査結果をどう生かしていくのかが問われてきます。

この8年の間、私たちの活動を継続し続けることができたのも、多くの方々からのご支援の賜物です。心より感謝申し上げます。

4月以降、私たちの活動の拠点であったカトリック神戸中央教会の建設工事に伴い、事務所の移転など様々な環境の変化が見込まれます。しかし、私たちは現在の活動をなお一層強化拡充させていくつもりです。今後もなお一層ご支援賜りますようお願い申し上げます。

事務局長 青木 しげゆき

神戸の冬を支える会

越年の取り組み

【神戸】

取り組み概要

取り組みは02年12月27日から03年1月6日の11日間に渡り行いました。場所はこれまでと同じく市役所南側にある『東遊園地』の公園の一角を利用しました。ここ何年も暖かく過ごしやすい取り組みでしたが、今年は暖冬の予想とは違い雨と雪に震える日も多かったと感じています。取り組み内容は毎日の相談活動を中心に、炊き出しや追悼集会、コンサートや餅つきなどのイベント、市民へのピラまきや行政への挨拶等を行いました。

取り組み内容報告

<炊き出し>

炊き出しを利用した人数は述べ3404人、平均309人の方が利用したことになります。4日に神戸市の越年の取り組み（更生援護相談所での3食提供）が終了し、昼食を求めて多くの方が参加したと思われる1月4日に最高の379人を数えました。

<相談活動>

毎日の相談活動には『生活相談』と『医療相談』があります。生活相談には「神戸公務員ボランティア」の力をかり毎日集中して行われた為に、平均して15人近い方が利用していたことになります。炊き出しのみでは野宿からの解決にはならないという思いから、通年的に毎週土曜日に生活相談を会として行っていますが、この時期も継続して相談活動を行っています。休庁期に相談したくても相談する場もなく受けられるものも受けられない状態に、協力が出来ればとの思いです。相談から夜間窓口への生活保護申請を行ったケースもありました。

医療相談には述べ191人の方が利用しました。会の構成団体を通して日常的に関わっている医療従事者に協力を要請し、毎日医療従事者による相談体制を確保することができました。相談内容はやはり風邪が多く栄養不良状態が目立ちます。慢性病では糖尿や高血圧などの訴えも見られ、取り組み終了後の医療への繋ぎに課題が残るケースもありました。

<ピラまき>

野宿の問題を当事者だけで考えるのではなく、広く多くの市民にも考えて欲しい。他人事では済まされない、何時自分の問題になるか解らないだけに、一緒に考えて欲しい。本来セーフティネットとしての生活保護が適正に運用されておれば、失職=野宿にならないですむケースも多いのにそうならない福祉の現状の中で私たちは生活している事を一緒に考えて欲しい。野宿から抜け出たいにも関わらず、その為に利用できる資源の選択肢の少なさが問題なのを解って欲しいし、一緒に考えて欲しい等など。そんな思いをピラに託し、期間中人通りの多い場所にまきにいました。未だ支援者側主導のピラまき形式になり、当事者には毎回呼びかけから始めるといのは、毎年の課題として残りました。今回のピラを見て、協力や寄付をと公園に足を運んでくださる方もおられ、広く訴えていく必要性と重要性を改めて痛感しました。

<休庁日・開庁日の挨拶と訴え>

市役所の仕事納めと仕事初めには、担当部署（保健福祉局保護課）に挨拶に行きました。野宿している当事者が両日とも30人近くが参加されました。通年で行政交渉と違い、公園に

集まっている皆での一緒の行動になり、参加しやすいと思われます。内容は挨拶とその場での要求訴えの域を出ませんが、自分たちの問題を扱う行政に出向き直接要求出来るという事、担当が誰なのか顔を見て解り「お役所」というイメージが多少でも変化の助けになれば、通年での行政交渉への意識に繋がったのではないかと考えます。

出合いの場としての越年

今回の越年に参加した支援者側には、市内の女子大学の学生が延べで100人近く参加してくださいました。同大学の授業の一部にこの越年活動が位置付けされていることもあってか、多くの参加がありました。参加する学生は、幾つかの聞き取りの課題があり公園のいたるところで学生に囲まれて質問を受けている当事者の姿がありました。課題を通しての関わりではありますが、話をしていくうちにいろいろ考えさせられた学生も少なくなく、問題意識を深める機会になったのではないかと思います。越年終了後も継続して関わりがもてるような方法を提供していけないか、私たちとしても検討していくことが必要だと思いました。

市の取り組みについて

神戸市の越年の取り組みに向けて、12月に同市に以下の3つの要望を提出していました。それは、同市は越年の取り組みを更生援護相談所（無料宿泊所）を利用する方々に提供するとある為に、『様々な理由で同所を利用できない人達にも越冬の為の支援策を受けられるように』という要望。『期間の延長や支援策の充実』『期間の前に行われるメトロ神戸(地下街)での相談事業については十分周知をすると共に相談しやすいものにする事』の3点です。同市の越年・越冬取り組み内容は以下の通りでした。12月27日～29日まで更生援護相談所に宿泊する者に夕食の炊き出しを行う。30日～1月4日の朝まで更生援護相談所に終日在室することを可能とし、3食を提供する。1月4日～2月28日まで更生援護相談所に宿泊する者に夕食の炊き出しを行う。3月1日～31日まで更生援護相談所に宿泊する者に月・水・金の夕食に炊き出しを行う。以上がその取り組み内容でした。会として12月に出した宿泊者以外への支援策については実現はありませんでした。神戸市としてはどうしても「施設利用」が先にあり、選択肢の少ない対応で済ませているようで、継続した交渉の必要性を感じます。期間についても、今年は特に年明けの役所の仕事始めが週末を挟む為に6日に延びたわけですが、3食の提供期間を何とか6日まで延ばすように申し入れていましたが、実現できませんでした。

野宿している人がおかれている状況への理解不足と現在でも可能な対応方法を今後も訴えていく必要性を感じます。メトロ神戸地下街での相談取り組みは今回から中止になりました。例年僅かな人数の利用者しかなく、たとえ相談しても更生援護相談所の宿泊を勧めるに留まっていただけに、どこまで意味があったのか疑問もありましたから、その中止は当事者への直接的な影響はないと思います。しかし、これまで神戸市として予算化された事業だけに、対費用効果なども含めて、何が必要なかをしっかりと考えていくよう、要求していく必要を感じます。

【尼崎】

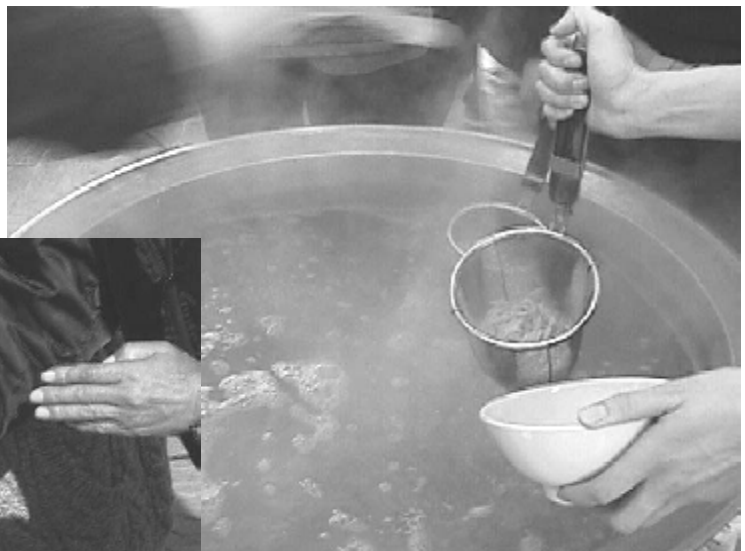
1月6日に神戸市東遊園地での越年活動を終了し、翌日の1月7日から13日までの7日間、今度は尼崎市庁舎前の橋公園にて、3回目の尼崎越年活動を行いました。年始の仕事始め以降のウィークデーの活動ということでボランティアも集まりにくい中1日平均12名、神戸に比べベント数も3張と小規模だったのですが、お昼の炊き出し・物資の配

布・生活相談・散髪など連日晴天に恵まれ、最後まで何となくのんびりした感じで無事終えることができました。また、思いもかけず（尼崎市秘書課に申し入れをしていたから当然と言えば当然なのですが）、新しく市長になった白井 文市長が市議会の合間に越年テントを訪れ、炊き出しメニューのことなどを聞かれました。革新系の新市長になって、野宿者を生み出しているこの社会の問題が少しでも改善されて行くのでしょうか。

連日の炊き出しには1日平均で約140名の野宿者が集まりました。ですが、尼崎の野宿者は夜アルミ缶集めなどをして働き、朝方それを寄せ屋に持って行くという方が多く、ほとんどが自転車で橘公園に立ち寄り炊き出しを食べて帰路に着くというような感じに見えます。逆に、そういう中、高齢者や障害者が目立ってしまうとも言えます。

期間中の生活相談を通じ、活動終了後の対応も含めて、11名の方が福祉事務所に緊急に相談に行き8名が緊急入院となりました。そして、その後5名が退院時にアパートを確保、1名は姉の家を住居にして居宅生活をはじめています。現在、まだ5名の方が入院中で、中には重病の方もいます。3年前の生活相談に比べ、毎週阪神尼崎駅前に対応していることもありますが、越年時の相談件数としては3分の1に減少しています。しかし、福祉事務所の対応は、予算的なことを理由に少し後退しているように感じます。また、病気の野宿者を入院させてくれる病院が極端に少なくなっています。それで福祉事務所が対応できず、病気の野宿者を野宿場所に帰すケースも出てきています。これが現在の尼崎市の生活保護適用（一旦入院 退院時に敷金支給を行うといった対応のしかた）の限界と問題点と言えます。

越年活動が終了して1月27日、尼崎市健康福祉局を中心に、保護課・公園課・港湾課などの各部局との話し合いを持ちました。主に「自立に向けての支援法」を受けて、「尼崎市での施策をいっしょに考えましょう」という申し入れでしたが、解答は「2月の実数と実態の調査を受けてから」と「予算がない」というものでした。それでも、「現行でできる部分もあるから」と主張しましたが、さあ実際どこまで有効な施策を立案できるのでしょうか。行政だけで独善的にやるのではなく、NGOの意見を聞きいっしょに取り組んで行けたら願っています。



【炊き出し：この日のメニューは年越しソバ】

【追悼集会にて】

尼崎市の全国調査を終えて

2月初旬に尼崎市で「ホームレス（この呼び方は個人的には嫌なのですが...）の実体に関する全国調査」（実数の調査と、当事者の聞き取り調査）が行われました。この調査は、昨年成立した「ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法」の基本方針策定にあたり、実態を把握し、調査内容の結果は国に集計され、今後の支援策の検討、活用されるために実施されました。

今回の調査は、尼崎市が大阪府立大学社会福祉学部都市福祉研究会（以下府大）に委託し、そこから「神戸の冬を支える会」の運営委員へも参加の声がかかり、調査に参加することができました。ただ、神戸市で行われた、調査に関しては、神戸市から調査の実施・結果等の情報は現在までまったく得られていません。

昨年、尼崎市が調査し、発表している実数は約170名。今回調査を行って確認をした人数は323名とかなり大きな差が出ていました。

今回尼崎市で行われた全国調査では国から渡された調査票からさらに詳しく聞き取るために尼崎市・八尾市・堺市に共通する府大が作成したオリジナルな調査票を使って聞き取り調査を行いました。

国の調査票は一人ひとりの実情を、詳しく聞き取るものではなく、ただ単に表面上の答えしかでてきません。これでは、当事者がどのように望んでいるのか、

その背景にあるものが、十分に見えてこないのもので、行政がよく行う統計学的な資料の域を出ません。その集計結果だけを元にして支援策を検討・実施するのでは、本当に必要な支援策ができるとは思えません。

しかし、尼崎市に提出される聞き取り調査表は、話を聞かせてもらった人の今までの経緯・現在の状況・今後どのように望んでいるかが読み取れるはずですが、（ただ、尼崎市がどれだけ支援を行うかは、わかりませんが...）

この調査で、今後国・県・市が、ただ単に決められたケースだけを支援するのではなく、個々のケースに応じた支援ができるような基本方針が出てきたら良いと思いますが。

都道府県名	人数	都道府県名	人数
北海道	142	滋賀県	57
青森県	16	京都府	660
岩手県	18	大阪府	7,754
宮城県	222	兵庫県	947
秋田県	13	奈良県	14
山形県	24	和歌山県	90
福島県	43	鳥取県	13
茨城県	130	島根県	4
栃木県	134	岡山県	65
群馬県	87	広島県	231
埼玉県	829	山口県	33
千葉県	668	徳島県	14
東京都	6,361	香川県	46
神奈川県	1,928	愛媛県	85
新潟県	74	高知県	23
富山県	24	福岡県	1,187
石川県	22	佐賀県	41
福井県	24	長崎県	41
山梨県	51	熊本県	124
長野県	37	大分県	39
岐阜県	86	宮崎県	22
静岡県	465	鹿児島県	80
愛知県	2,121	沖縄県	158
三重県	46	合計	25,296

左の表は、3月26日、厚生労働省より発表された全国調査の集計結果です。この概数調査と生活実態調査（全国で2,100事例）の結果を集計したものを元に「基本方針の策定」がなされることになっています。兵庫県下の主な自治体では、神戸市（323人）、尼崎市（323人）、西宮市（130人）、姫路市（57人）、伊丹市（39人）、明石市（16人）、芦屋市（16人）、加古川市（15人）、川西市（9人）、宝塚市（8人）となっています。

今後、6月をメドにとりまとめられる国の基本方針に沿ってどのように具体的で有効な支援策を兵庫県や各自治体が策定していくのか、目を離すわけにはいきませんし、私たち「神戸の冬を支える会」としても、もう一步踏み込んだところで、支援策の策定過程に関わっていくことができるかが問われてきます。

今後も御協力とご支援のほどよろしくお願いいたします。
（事務局）

重要なお知らせ

○ 神戸の冬を支える会 ○

カトリック神戸中央教会の建築工事に伴って、神戸の冬を支える会の事務所も下山手集会所（神戸市中央区下山手通7-17-1）に移転いたします。

連絡先としての住所や電話番号についての変更はありません。今までどおりの連絡先となります。

住所：神戸市中央区中山手通1-28-7

電話番号：078-271-7248

E-mail：kobe-fuyu@nifty.ne.jp

郵便振替：01140-5-75854

神戸の冬を支える会の活動についても、毎月第4土曜日に行っている「仲間の集い」は4月より、小野浜公園（中央区小野浜町・市バス29号系統第5突堤下車）で行います。

○ カトリック社会活動神戸センター ○

神戸の冬を支える会を構成する「カトリック社会活動神戸センター」の活動についての変更がありますので、事前にお問い合わせをいただいた上でご参加下さるようお願いいたします。

4月より

炊き出し：

毎週火・木・土曜日の週3回、前述の小野浜公園で行われます。
食事を提供する時間は正午を予定されています。

夜回り：

下山手集会所を拠点に行われる予定です。

集合時間：19：30

出発時間：20：00

日本キリスト教団兵庫教区

被災者生活支援・長田センターより

阪神・淡路大震災から9年目を迎え、また神戸の冬を支える会(以下、支える会)の活動も9年目を迎えています。「支える会」には建ち上げ当時から兵庫教区の枠組みで参加し、今日は被災者生活支援・長田センターと教区社会部とが担当窓 となって取組みを継続しています。

大震災を契機に始まった「支える会」の活動内容は、ずいぶんと変わって来たように思えます。炊き出しと夜回りが中心であった活動も今日では生活相談がその役割の多くを担っているように感じています。生活相談を通してそれぞれが抱える課題の整理・解決のために具体的な対応を図ることに努め、野宿をしたくない人が野宿をしなくても良くなっている状況を積み上げて来ています。もちろん、生活相談と一口に言っても、相互の信頼関係を築くことは容易でなく、これまで継続されて来た炊き出しや夜回りの活動がどれほど大切なものであったのかを、改めて噛み締めさせられています。

今日、「支える会」の活動が一定の成果を上げながらも、残念ながら野宿者は減少していません。さらに言えば、野宿となって新たに出会う方たちは急増しているように思えます。不況・リストラによって仕事を失い、「震災減免家賃」の支払いが困難となった結果、家賃滞納の行政処分を受けて復興公営住宅から強制的に退去させられてしまった末、野宿を余儀なくさせられた被災者を生み出す現状を見過ごすことは出来ません。

生活再建に積極的であろうとしても、その生活を支える経済的基盤が軟弱では立ち上がりにも出来るはずがありません。ここから一步を踏み出そうにも、その足場さえ崩れてしまっている状態なのです。被災地の復興・生活再建の根本課題は雇用の創出、仕事作りであると実感しています。雇用と仕事があれば、被災地の地域経済は潤い、街は活気を取り戻し、地域コミュニティが再生されると信じています。しかし、野宿者が増加している震災被災地の現実を見て、人間の街とは程遠い「復興」にいらだちを感じています。被災地は揺すぶられ、被災者は不安の闇の中にあり、今なお大震災は続いています。

わたしたちの長田センターでは、被災者生活支援として地元地域活動に積極的に参加し、被災地域のコミュニティの再生を願っています。また週2回(火・木)のお茶会を「ぼらんで屋」と称して行なっています。「ぼらんで屋」を訪れる方の中には、野宿から公営住宅に入居された方、現在も野宿している方が居られます。お茶会での何げない会話から、現状の厳しさ、生活の課題をうかがいながら、被災地・被災者を取り巻く問題が「野宿」に凝縮されていることに気付かされます。今後とも大震災を視座として「支える会」の活動を支え、担うとともに被災者の生活再建への働きに尽くしていきたいと願っています。どなたでも、気軽にお立寄りください。歓迎いたします。

主事・柴田信也

神戸の冬を支える会の活動は、多くの方々からのご寄付によって支えられています。

昨年12月6日～3月20日までの間に次の方々からご寄付をいただきました。心より感謝申し上げます。

大崎剛 / 萱場基 / 日本基督教団龍野教会 / 丸山淑子 / 花岡はる代 / 日本キリスト教婦人矯風会神戸支部 / 長瀬三千子 / 車昌泰 / 加藤誠・泉 / 清水侑子 / 宝塚教会むつみ会・いづみ会 / 日本基督教団甲子園教会瑞穂会 / 八尋孝一 / 庄谷怜子 / 池長潤 / 磯部豊・前田圭子 / 神戸美桜 / 鎌田多美子 / 日本基督教団神和教会 / 暁光会大阪支部 / カトリック千里ニュータウン教会 / 渡辺玲子 / 住吉カトリック教会 / 六甲カトリック教会手作りコーナー / 酒井桃子 / 静岡教会婦人会 / 中田作成 / 星出美千子 / 二宮百合子 / 日本基督教団豊岡教会 / 光の丘幼稚園 / 松本玲子 / 福島YWCA / 久保田恵美 / 清洲辰也 / 六甲カトリック教会 / 日本アライアンス教団神戸伝道所 / 杉山裕子 / 浦和YWCA / 神戸バプテスト教会 / 援助修道会六甲修道院 / 日本基督教団芦屋浜教会婦人部 / カトリック北須磨教会 / シナピス神戸 / 向井金蔵 / 寺崎智恵 / 石田貞子 / 岩崎美枝子 / 松尾閨多・孝子 / 植田育子 / カトリック岸和田教会 / 清水侑子 / 徳大寺千穂 / 鹿嶋節子 / カトリック園田教会 / 平野卓見 / 松尾義雄 / 川辺比呂子 / 河合成一 / カトリック三田教会 / ネットワーク朋 / 明石カトリック教会 / 日本基督教団山崎教会 / 小久保哲朗 / 森定弘次 / 日本基督教団芦屋西教会 / 岡田信子 / 芦屋浜教会 / 日本基督教団須磨教会 / 栗栖幸江 / 水谷すゝ恵 / 早川和男 / カトリック洲本教会グノイ神父 / みこころ幼稚園 / 野田底吾 / 上野万弓 / 匿名 / ルーテル学院 / 上田律子 / 日本基督教団神戸愛生伝道所 / 聖母被昇天修道院洲本修道院 / 被昇天修道院 / イイダ / 半田勝 / 本多恵子 / 多湖敬子 / 飛田雄一 / 久保田恵美 / 岩橋章子・綾子 / 野田由美 / カトリック武庫之荘教会 / 神戸栄光教会 / 日本基督教団神戸東部教会 / 日本基督教団神戸東部教会教会学校 / 荒木祐樹 / 日本基督教団能勢口教会 / 青木秀男 / 聖母奉献修道会 / 田中道隆・文枝 / 神戸YWCA / 和田唱子 / 石川和男・節子 / 宮前峯子 / 滝川裕康 / 垣田典子 / 永井 / 長浜美知子 / カトリック社会活動神戸センター / 川崎恵美子 / 広部ふみ / 日本基督教団夙川東教会 / 日本基督教団東灘教会 / SDA神戸有野台キリスト教会 / 愛徳カルメル修道会垂水修道院 / 日本基督教団岡山教会 / 日本基督教団広島古市教会 / 日本基督教団神戸教会 / 日本基督教団畦野教会 / ショファイユの幼きイエズス修道会岸和田修道院 / 後藤安子 / 青山純代 / 男子跣足カルメル修道院上野毛修道院 / 聖和大学宗教事務室 / 魚住みち / 井手公平 / 日本基督教団三木志染教会 / 日本基督教団甲東教会 / 日本基督教団夙川東教会 / 翠ヶ丘教会 / 日本基督教団東神戸教会 / 芦屋岩園教会 / 奥野順子 / 道清文義 / 樋口シヅ子 / 朝井邦子 / 香川弘光 / 相川栄蔵 / 日本基督教団宝塚教会 / 山岡創 / 日本基督教団御影教会 / 稲邑恭子 / 熊本YWCA / カトリック聖ヨハネ病院修道会 / 日本基督教団社会委員会大阪教区 / 日本基督教団三木志染教会CS / 和田山地の塩伝道所 / 古賀昭範 / 愛徳学園小学校 / 日本基督教団京都教区「教会と社会」特設委員会 / (敬称略、順不同)

万が一お名前のもれ、誤字等がございましたらお知らせ下さいませようお願いいたします。

【編集後記】事務所の移転作業に伴い、毎日がバタバタ追いまわられています。そんな中でも、私たちを頼ってこられる方々への対応がおざなりにならないようにと思ってはいるのですが、つつい忙しさを言い訳にしていまいます。5月からは第9期神戸の冬を支える会の活動が始まります。事務所の移転や環境の変化を乗り越え、今まで以上の活動を目指していきます。これからもよろしく願いいたします(Shige)